

小田香特集2025

記憶と光が反射する

最新作『Underground アンダーグラウンド』の公開を記念して、
上映機会の少ないデビュー作「ノイズが言うには」から短編『カラオケ喫茶ボサ』まで、
小田香の15年にわたるフィルモグラフィを振り返る

写真「カラオケ喫茶ボサ」より

新作長編『Underground アンダーグラウンド』の公開と共に、特集上映をしていただけることになりました。自分自身と家族を撮った映画、サラエボやメキシコで撮った映画、短かったり多少長かったり、ドキュメンタリーと呼ばれたり呼ばれなかったり、なんだか一貫性のないようなフィルモグラフィに見えますが、身近な葛藤を映画に撮ることを経て、未知の場所をカメラで探求する方向にいったことは、じぶんにとっては自然な流れだったという気がします。一連の過程のなかで、じぶんが常に考えていたのは、カメラの後ろ（じぶん）とカメラの前（人間、土地、出来事）の関係性を誠実にうつすには、どこにカメラを置いて、どのように撮ればいいのかということでした。多くの過ちや不出来のなかで、たまに、なにかうつったかもしれないという瞬間があり、その欠片を集めて編集で接続させてきました。

じぶんの映画制作の動機のひとつに、他者を理解したい、他者から理解されたい、という感情があります。最近では、他者を完全に理解することはないし、家族であれ見ず知らずの人であれ理解できると思うこと自体が不遜だと思うようになりました。それでも、感情は感情として胸にあり、そんな距離感が特集で上映していただく作品のイメージに反映していただいていると思っています。

2025年1月 小田香

最新作『Underground アンダーグラウンド』公開記念



A | ノイズが言うには 2010年 | 38分

★なら国際映画祭2011 NARA-wave部門観客賞
夏休みに一時期帰国した主人公は、自身が性的少数者であると家族に告白する。突然の告白を受けとめられず拒絶の母、沈黙の父。その反応に主人公は失望するが、家族の協力が自己の告白についての映画をつくりはじめ。各々が自分を演じ、その言動を体験するなかで、無きものになりつつあった告白が再び家族の前に提示される。タル・ペーラ監督が激賞、映画学校film.factory入学のきっかけとなった。

A | あいの優しさへ 2017年 | 63分

★ライブアビヒ国際ドキュメンタリー&アニメーション映画祭2017 正式出品
小田の生まれ故郷である日本で撮影した私的な映像とサラエボのフィルムスクールで学んだ3年間の授業の中で撮影した未使用のフットageを使用し、性の問題を抱える人々、国境を越える対話、貧しさや労働についてなど、力強いカメラワークとともにドキュメンタリー映画の本質を問うパーソナルな作品。

B | 鉱 ARAGANE 2015年 | 68分

監督:タル・ペーラ
★山形国際ドキュメンタリー映画祭2015 アジア千波万波部門特別賞 ★リスボン国際ドキュメンタリー映画祭2015 正式出品 ★マル・デル・プラタ国際映画祭2015 正式出品 ★台湾国際ドキュメンタリー映画祭2016 正式出品
ボスニア・ヘルツェゴビナ、ブレザ炭鉱。地下300メートルには、一筋のヘッドランプの光と闇に憑く人々、爆音で鳴り続ける採掘重機と歯車、そしてツルハシの響き。死と隣り合わせのこの場所で、人は何を想い、肉体を随使するのか。小田は単身カメラを手に地下世界をひたすら見つめる。世界中の映画祭で衝撃を持って迎えられた小田監督の代表作。

C | セノーテ 2019年 | 75分

★ロッテルダム国際映画祭2020 正式出品 ★山形国際ドキュメンタリー映画祭2019 正式出品
メキシコ、ユカタン半島北部に点在する、セノーテと呼ばれる洞窟内の泉。現世と黄泉の世界を結び信じられていたセノーテをめぐる交錯する、人々の過去と現在の記憶。光と闇の魅惑の映像に遠い記憶がこだまする。本作で、2020年に設立された大島渚賞では第1回目の受賞という快挙となった。

D | GAMA 2023年 | 53分

★山形国際ドキュメンタリー映画祭2023 正式出品
沖繩戦で多くの住民が命を落とした自然洞窟「ガマ」の中で、平和の語り部としてガイドを務める男性。その傍らに佇む青い服の女性が、現代と過去の交差を表現する。映画作家・ダンサーの言聞菜葉がシャドウ(影)という女性を体現し、最新作「Underground アンダーグラウンド」に繋がる、歴史と記憶に触れる小田監督の新境地が眼前に現れる。

[短編集]

E | ひらいてつぼんで 2012年 | 13分

少女があやとりをしながらバスを待っている。バスは停車する度にひとり、またひとりと乗客を迎え、松明の灯の終着点に辿り着く。京都花背で行われるお盆の火祭り「松上げ」を背景に、彼岸と此岸を少女たちの手が結ぶ。デビュー作「ノイズが言うには」のあと、小田監督が唯一脚本を書き制作した作品。

E | 呼応 2014年 | 19分

監督:タル・ペーラ
牛飼、羊、風、あらゆる生きものが等しく在るように感じられる村。死と生はわけられない。メリーゴラウンドに乗って、隣人の手をとり踊ろう。film.factoryに参加するために日本からボスニア・ヘルツェゴビナのサラエボに移った小田監督はカメラと小さなボスニア語辞典だけもってウモリヤニというボスニアの村を記録する。

E | FLASH 2015年 | 25分

サラエボからザグレブまで行く長距離列車の車窓から見える異国の景色を見ながら、なぜか懐かし気持ちになり、ふと、じぶんの思い出せる限り一番はじめの記憶はなんだろうという疑問が湧いた。思い出せるように思い出すことのできない始まりの記憶を巡る列車の旅。

E | 色彩論 序章 2017年 | 6分

ゲートは自然を愛し、環境の整った実験室で分析された光(学)からは距離をとった。「色彩」というのは眼という感覚に対する自然の規則的な現象」だと彼は言う。光と闇が我々の個人史を通り抜け、幾千の淡となり、色彩として現れる——。16mm黑白フィルムで撮影。

E | 風の教会 2018年 | 12分

神戸・六甲にある安藤忠雄建築「風の教会」リニューアールオープンに向けて行われた修復工事を記録。コンクリートを食べた痕や苔が廃教会となっていた時間の長さを告げる。閉じられていた扉が開かれると、止まっていた時間が再び動き出す。

E | Night Cruise 2019年 | 7分

大阪の水路を巡る「梅田哲也/hysloom船・2017」に研究員として参加した際に撮影した素材と、翌年のクルーズ船ツアーで撮影した素材を合わせひとつの作品にした。魅惑的な夜の河に、揺らめく水と光。

E | カラオケ喫茶ボサ 2022年 | 13分

カラオケ喫茶ボサは大阪の郊外にある、歳を重ねたご近所さん達がカラオケしたり休んだりする場所。小田監督は、母が働くその場所で、タイムカプセルに残すように、人々の痕跡やそこに宿る記憶を焼き付ける。



あの優しさへ



鉱 ARAGANE



セノーテ



GAMA



ひらいてつぼんで



呼応



FLASH



色彩論 序章



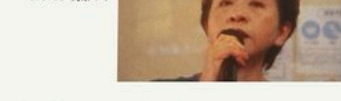
風の教会



Night Cruise



カラオケ喫茶ボサ



●全作品、日本語または日本語字幕付き ●作品提供:FieldRain, trixta ●配給:スリーピン ※小田香作品のソフト化、配信の予定はございません。

2/22(土) ▶ 3/7(金)
(予定)

小田香

Oda KAORI

	2/22	23	24	25	26	27	28
	[土]	[日]	[月-水]	[火]	[木]	[木]	[金]
14:00	B-14	D-C	A-D	E-A	A-B		
16:00	A-B	D-A	*B-E	C-B	C-B		
18:00	C	A-B	18:30	E-A	C-E		
20:00	E	C-E		C-B	E-A		

▶ 3/1(土)以降のタイムテーブルは後日発表

2011年、アメリカ、ホーンズ大学教養学部映画コースを修了。卒業制作の中編作品「ノイズが言うには」が、なら国際映画祭2011 NARA-wave部門で観客賞を受賞。2013年、映画監督のタル・ペーラ(『サタンゴ』)が主宰するfilm.factoryに第1期生として招聘され、ボスニアの炭鉱を主題とした第1回長編作品「鉱 ARAGANE」が山形国際ドキュメンタリー映画祭2015・アジア千波万波部門にて特別賞を受賞。2020年に設立された大島渚賞(審査員長:坂本龍一、審査員:黒沢清/荒木啓子[PFFディレクター])では第1回の受賞者となった。

- A「ノイズが言うには」+「あの優しさへ」(計101分)
- B「鉱 ARAGANE」(68分)
- C「セノーテ」(75分) D「GAMA」(53分)
- E短編集「ひらいてつぼんで」+「呼応」+
- 「FLASH」+「色彩論 序章」+「風の教会」+
- 「Night Cruise」+「カラオケ喫茶ボサ」(計95分)
- ★上映後、小田監督登壇イベント予定

- 料金
- 一般:1500円
- 大学生・専門学校生:1,400円
- 会員・シニア:1,300円
- ※「FLASH」
- 前売券・半券提示で
- 一般料金のみの200円引き

ユーロスペース

EUROSPACE

渋谷・文化村前交差点左折
tel 03-3461-0211
www.eurospace.co.jp

小田香監督最新作 Underground アンダーグラウンド 3/1(土)〜ユーロスペースにてロードショー

小田香監督 FUKUSHIMA with BÉLA TARR (180分/2024) 2/15(土)〜21(金) ユーロスペースにて1週間限定上映